

シーン3 ミミとHなおままごと

「お兄さん、大人しく椅子に座ったままでいてね♪」

「動こうとしても、催眠で動けないと思うけど、くすすつ。また、ミミのお胸、見てるく正義の味方がそんなエロくっていいのかなあ？」

「んちゅぱッ、はふう、ミミの舐めてたロリポキャンディーあげる」

「ほらあ、しゃぶってみて。くすすつ、すっごく甘いでしょ♪」

「これ舐めると、エッチなことにどんどん抵抗なくなっ、ミミみたいな悪の組織のために頑張れる、とっても悪い子になれるんだよ」

「じゃあ、今日は、一緒におままごとっこ」

「頭の中蕩けるぐらい美味しいミミの特別料理ご馳走してあげるね♡」

「お兄さんは椅子に座ったままでいいからね」

「んふふん、ふん♪ 目の前のテーブルにはちみつのビン、作ったばっかのホイップクリームを並べて、っと。それからミミも、んんっ、よいしょっと、テーブルの上に乗っちゃうよお」

「ミミの上の服を脱いで、んしょ、んしょっと」

「んふふ、ミミのおっぱい、どう？ 大きいでしょ？ 顔のわりに、身体が大人だって言われるんだよ、えへへっ」

「下の服も脱いで、んしょ、んしょっと、これで準備完了」

「くすすっ、何よ、ミミの素っ裸、そんなに珍しいの？ このはちみつとホイップクリームを手を取ってっ、今からミミの裸へ、んっ、んんっ、たっぷり塗っていくよ。ほらっ、胸も、お腹の上も、おまんこも……」

「あふうう、クリームや、はちみつまみれだよ。ほらあ、ミミ、美味しそうでしょ。足の先にだってクリーム、ぬぐりぬりしちゃうね。これがお兄さんあげるミミの特別料理だよっ♪」

「椅子に座ったまま、顔をこっちに出して」

「まずはお胸から、あふう、ぺろぺろして……んん、んんっ、あん、そうよお。お兄さんの舌が、はひい、胸を行ったりきたりして、あふうう、感じるよお♡ んんっ、ほら、お兄さん、お胸ばかり舐めてる……」

「ミミの足の先にも、ほら、クリームついちゃってるから、ちゃんと舐めてね♡ 甘くて、とーろーりクリームとはちみつのかかったミミの足の指♡」

「あんッ、そうだよ指の股の間も、舌をちゃーんと入れて、舐めなきゃだめ♪」
「それにしても、お兄さんってば、女の子の足の指なんて♡」

「ロリポキャンディーみたいにおしゃぶりしちゃって、きゃはははッ♪」

「じゃあ今度は、ミミが股を大きく開いてあげるから♡」
「太腿の内側まで舐めてお掃除、んふふ、そう上手だよ」

「お兄さん、まるで犬みたい♡ 洗脳に負けないって言いながら あんっ♡ ミミのからだ美味しそうに貪って、ん、ザコなのに頑張ってたかいい♡」

「お兄さん、太腿をおしゃぶりするふりしてミミのおまんこ、じっと見て♪ やらし〜んだあ、くすすッ。メスガキのとりとろおマンコ。大好物だもんね…め、い、れ、い♡」

「あそこのクリームやはちみつも、しっかり舐めてね♡」

「あはああ、そうらよお、舌先でれろろして、割れ目のクリーム全部ぬぐい取って、んふうう、もっと、ちゃんと舐めないと、ぜ〜んぶ取れないよお。んはああああ、あはあッ♡」

「んあ♡ クリにお兄さんのお鼻あたってっ、あ、ああっ♡ クリトリスなめなめいい!」

「あ、あ♡ ミミのくりちゃん♡ んんっ♡♡ 気持ちいい♡!」

「イク♡、イっちゃ♡♡♡!」

「はふう、ああ、気持ちよかったあ、ミミ、お兄さんのおしゃぶりでイっちゃったあ……くすすっ♡」

「お礼にミミもお兄さんを舐めて脳みその奥までとろとろに溶かしてあげる」

「ほら、じゅる、れろろお、遠慮しないれえ、んじゅるッ♡」

「まずはお兄さんの右のお耳から、外側から舐めちゃうよ♡」

「唾液たっぷりつゆだくで、んじゅるる、れろ、じゅる、れろろッ♡」

「次は耳の孔だよ、れろおおって♡ 唾液垂らしてえ、んじゅ♡ れろれろしひゃう♡」

「そのまま中を、舌でじゅぷじゅぷするよ、ちゅぱちゅぱ♡ んじゅぱ♡ んちゅぱ♡」

「次は左のお耳も、舐めるよお♡」

「こっちも外側から唾液で、んじゅるッ、はふう、コーティングしながら、んじゅるッ、じゅる、れろお、じゅるるッ♡ はふ、れろッ♡」

「耳の孔も、舌を入れて、じゅぷじゅぷかき混ぜちゃう♪」

「んじゅる♡ んちゅぱ♡ ちゅぱ♡ ちゅぱ♡ はふう♡ んちゅぱ♡」

「あは、お兄さん、お耳もザコザコなんだね。ミミのなめなめ攻撃でえ」

「ぴくんぴくん身体震わせて、はあはあ興奮してるの、おっかし♡の♡」

「頬も真っ赤で、息づかいも荒くなっちゃってるし♡ それにほらあ、オチンポ、すっごく大きくして、ガッチガチ♡」

「今から、ミミが、お兄さんの勃起オチンポ、もーっとぺろぺろしちゃって、はちみつみたいに、とろっところにとろけさせちゃうね♡」

「最初はオチンポの根元から先っぽを舐めまわすね」

「んれろろ、れろろッ、れろれろッ、んじゅる、はふう♡」

「んじゅるるッ、はふ、れろ、れろおお、れろろッ、あふ、どう♡」

「ミミの舌が絡んれえ、れろおお、気持ちいいれしょお♡」

「まーだ、出しちゃだめだよ、もっとおっきくして、あげるからあ、れろおッ♡」

「次は先っぽを咥えて、んちゅぱッ、ちゅぱ、ちゅぱッ、ちゅぱッ」

「はふう、んちゅぱ、ちゅぱッ、ちゅぱぢゅぱッぢゅぱッ、ちゅぱぢゅぱッ♡」

「んふう、おくひのなかれ、ヒクヒクしれえ、もう出そうらね、くすすっ……でも、まだ我慢らよお、んむううう、ぢゅぱぢゅぱ、ぢゅぱぢゅぱッ♡ ちゅ。我慢汁いっぱい溢れさせて、もうイキそうなの？くすすっ」

「それじゃ、頑張ったご褒美にミミのおまんこ、使わせてあげるよお♡ お兄さんのザコ肉棒で悪い子なミミを懲らしめてみる？」

「けど、お兄さんなんか、オチンポ入れたら、すぐに射精させちゃうよ」

「何、今度は負けないって言うの？ んふう、いいよ♡」

「お兄さんは座ったままでいてね、ミミがこうやって正面から、抱き着いて入れてあげる」

「首に手を回してぶら下がったまま、ゆっくりと腰を落としていくよ。ああ、ああああッ、中に、お兄さんチンポ、入ってッ、凄いいい♡」

「はひ、はひいいッ……ああああッ……♡」

「ほら、お兄さん、おまんこしながら、あひ、あひいいッ、キスしようよお。んちゅ、ちゅぱ、んちゅぱッ、あふうう、んちゅッ、はふうう……♡」

「このまま、腰を動かして、オチンポ虐めちゃうからね」

「どれだけ頑張れるかなあ、くすくす、楽しみ♪」

「どう、お兄ちゃん、腰が上下して、ほらほらあ、オチンポごしごしされちゃって♡」

「ほらほらあ、もう限界なのお？　ほら、もっと頑張って。ミミが腰をこうやっれ、動かしながらッ、キスしてあげるから」

「んちゅ、んちゅぽっ、んちゅ、ちゅぽっ、はふうっ……あはああ、もっとキスしよ、んちゅ、ちゅっ、ねえ、どうしたの、もうイキそう？」

「オチンポからザーメンどびゅどびゅって、お漏らししちゃうんだ、くふっ。出しても、いいけどお、ミミの中はだ〜めッ♡」

「敗北射精なんだから、外に出して、ほら、おまんこから、んはああ♡」

「オチンポ、抜いちゃうからあ、あはああ♡」

「いいよ、ほら出してッ、負けチンポザーメンミルクっ♡」

「んんっ、んちゅ、ミミとキスしながらあ、はふう、んちゅぽッ」

「いっっぱい、ミミの身体にぶっかけてえええ——ッ♡」

「んちゅ、んちゅぽッ、あふうう、んちゅッ♡」

「あはッ……お兄さん、いっぱい精液、出しすぎ♡　ミミの身体、こんなにザーメン汁まみれにされひゃった」

「お兄さんの負けた証し。やっぱりお兄さんはメスガキでイっっちゃう変態さんだね」

「精液とクリームのまざったのが、すぐくえちやったよお♡」

「んん、舐めたら、どんな味するのかな、んちゅぽッ、はふうう♡」

「鼻の奥まで犯しそうなオス臭い香りで、やらしいお兄さんの味がする」
「敗北ザーメンの味、ミミ大好き♡ 次もいっぱい負けてご馳走してね。ザコヒーローのお兄さん♡」